

第49回黒部川土砂管理協議会

●開催要件

○開催日時 令和3年2月17日（水） 13：30～15：10

○会場 入善まちなか交流施設うるおい館 2Fイベントホール

○出席者

- ・大野 久芳 黒部市長
- ・堀口 正 富山県農林水産部部長
- ・笹島 春人 入善町長
- ・市井 昌彦 富山県土木部次長
- ・笹原 靖直 朝日町長
- ・藤井 俊成 関西電力(株)北陸支社長
- ・門脇 裕樹 富山森林管理署長
- ・新井田 浩 北陸地方整備局河川部長（座長）
- ・横井 三知貴 富山県
生活環境文化部次長

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)水力事業本部

報告事項

- （1）第53回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和2年度連携排砂ならびに連携通砂の実施結果・環境調査結果等について
- （2）令和2年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座長冒頭挨拶

座長

冒頭に当たりまして、一言私のほうからご挨拶をさせていただきたいと思います。

本日、委員の皆様方には、年度末のお忙しい中、また大雪で足元の悪い中、当協議会へご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から国土交通行政、とりわけ河川行政の推進に当たりまして、ご理解とご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本協議会は、ご案内のとおり、黒部川の出し平ダム、宇奈月ダムの円滑な排砂及び適切な黒部川流域の土砂管理などに関し、関係機関との協議調整を図ることを目的に、平成10年に発足しまして、毎年、排砂前と排砂後の2回、開催をしております。

今回の協議会は、今年度の連携排砂及び環境調査等の結果をご報告し、来年度の排砂計画等の策定に当たりまして、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

今年度の連携排砂は、出し平ダムの水位低下のタイミングを従来よりも遅らせ、宇奈月ダムの水位低下を先行させることによりまして、宇奈月ダムにおける堆積土砂の軽減や、また排砂に伴う濁水の緩和、こういったことを目指して実施をしました。

結果は後ほど詳しくご報告をさせていただきますけれども、おおむね期待した効果が得られるとともに、排砂評価委員会のほうからは、周囲の環境に大きな影響を及ぼしたとは考えられないというご意見もいただいたところでございます。

本日は限られた時間ではございますけれども、委員皆様からの忌憚のないご意見をいただければというふうに思います。

どうぞよろしく願いいたします。

(1) 報告事項

第53回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和2年度連携排砂ならびに連携通砂の実施結果・環境調査結果等について

座長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの2件の報告につきまして、どこからでも結構でございますので、ご質問、ご意見等があればよろしくお願いたします。

G委員、どうぞ。

G委員

それでは、まず宇奈月ダムと出し平の連携のことについてお伺いします。

ご出席の皆さん方には、日頃から黒部川流域のことについて、いろんなことに対しまして格段のご配慮をいただき、誠にありがとうございます。住民の一人として、まず心から感謝を申し上げたいと思います。

その上で、今回初めて行われた宇奈月ダムと出し平ダムの排砂による先行操作の関係ですが、排砂量が、目標20万 m^3 に対して実際は12万 m^3 だったと。しかし、評価としては10万から38万という想定変動範囲内というふうにしておりますが、これによって、結局は出し平ダムに土砂がたくさん残ったというふうに見なければならぬと思うんですが、まずこれに対する認識をお伺いしたいと思います。

座長

事務局のほう、よろしくお願いたします。

事務局

ご意見ありがとうございます。

おっしゃるとおり、想定変動範囲内とはいえ目標よりも少ない結果になったことにつきましては、この1年だけの結果に対して何か重大な問題があるとか、そういった評価を下すものではなく、これまでもやってきた中で、継続的にこの土砂管理をしていくために、出し平ダムでの土砂の対処として、排砂だけではなく重機を使った土砂移動ということもやっております。

土砂の出る量が多いか少ないかというのは、年によって、洪水の条件によっても違ってきますので、出ない年もあれば出る年もある、そういったところも見ながら、併せて重機

での土砂移動という違う方法も活用しながら、適切な土砂管理というのを続けてまいりたいと思っております。

座 長

どうぞ。

G委員

ちょっと私の質問したのと見解とが違うんですが、まず結論から言うと、私は今初めて先行操作に取り組まれたこと、さらに令和3年度やってみるということについては賛成です。

そこで、問題は流入量の問題だと思うんですよ。宇奈月ダムから先、土砂を流したと、さあ、待っていましたというふうに出し平ダムから出すと。そのときに、既に時間的な時差があって、流入量が減ったことによって、もうちょっと出し平ダムから出せたんだけど、残念ながら出せなかったという認識をお持ちなのか。

そこであると、私はもっと詳しく言うと、気象の問題もありますので、このあたり、気象の専門家の話も聞きながらやっていくということがこれから繊細な意味で必要になってくるかどうかということまで聞きたかったんですが、そういう認識は全く話されませんでしたので、流入量の問題ということについては全然意識されていないんでしょうかね。お願いします。

座 長

どうぞ。

事務局

事務局のほうからお答えします。下流の宇奈月ダムを担当している黒部河川事務所のほうから報告します。

別添-1-⑤の5ページですが、まずG委員からお話があった、いわゆる気象の関係もあるんじゃないかというところは、まさにご指摘のとおりでございまして、5ページの表に排砂と書いてありまして、従来操作がマイナス144,000 m³とか、先行操作が109,000 m³と書いています。シミュレーションの関係なので数字の誤差はあるのですが、実は今回、仮に従来操作をやったとしても、排砂のときに出る土砂の量というのはあまり大きく変わらなかった。従来操作をやったとしても20万 m³には到達しなかったのです。

理由としましては、今回は短期集中的な雨がありまして、雨が続かなかったのです。なので、流入量が少なかったということで、従来操作をしたとしても20万 m³じゃなくて、

その変動の幅の間だったというところがあります。

あともう一つ、排砂評価委員会のほうでも委員の先生方からご指摘があったのですが、とはいえ、今回の先行操作で出し平ダムの水位低下を待っていただいて、先に宇奈月ダムの水位が低下した分でのタイムラグもあるといったところもあるので、一義的には、今回、雨の降り方の話で土砂が20万m³に対して少なかったという点、もう一つは先行操作によって、宇奈月ダムのほうは堆積土砂量の軽減はあったのですが、出し平ダムは多少タイムラグがある関係で出にくかったというところがあります。そこがここにある数万のオーダーですけれども、多少出にくくなったというところがございます。そのように認識しております。

G委員

もう一回お願いします。

座長

はい、どうぞ。

G委員

今の事務局のお話は非常に分かりやすかったです。

そこで私どもが思うのは、この課題としてですよ、次またもう一回やるという前提に立ったときに、やっぱり気象条件というのは一番大事なわけですから、宇奈月ダムから、さあ、先出すと。その後、追っかけて出し平ダムがやると。このタイミングを、気象条件をしっかりと把握しながら、今回は少し早く、追っかけて出し平ダムを開けたほうがいいのかというふうにするのか、あるいは十分行きそうだから、予定どおり宇奈月ダムをどんどん出してから、いよいよ出し平ダムをやるのか、この辺のことを検討材料として含めたほうがいいのかというふうに思っていますけど、これについてお答え願えますか。

事務局

事務局でございます。ありがとうございます。

まさに資料-1のほうの今後の留意点の最初のところに、来年度も先行操作については継続することと書いてあるのですが、実はそこにただし書があります。「その際」とありまして、今年度の検証結果を踏まえて来年度の試験運用内容を検討すること、これがまさに、今年度、宇奈月ダムのほうの堆積土砂量の軽減等の効果はあったのだけれども、ただ、こちらの資料-1の真ん中の宇奈月ダム先行操作の効果についての2ポツ目のほうで、一方、出し平ダムについては、結果として前年度よりも堆積傾向が強くなったという課題も

あるので、来年度の試験運用内容を検討することというふうな形で排砂評価委員会でもご指摘をいただいております。今回、G委員のほうからご指摘があったところも同じご指摘かなというふうに思いますので、我々、来年度の試験運用に向けては、こういったご意見も踏まえて方法について検討していきたいと考えております。

座 長

よろしいでしょうか。

G委員

この件はこれでいいです。後ほどまた。

座 長

ちょっと私のほうから、G委員がおっしゃるように、気象の関係と出し平ダムの開けるタイミングみたいなところを検討していくという1つの方策があろうかと思います。

その他に、今回の結果で出し平ダムからの排砂量が少なくなったというのは事実なので、その分、別な方法で出し平から土砂を出すようなことを何か考えられないかと。それは回数を増やすとか、そういうことも含めてですけども。

ということで、今回の結果をもう少し分析をして、G委員のご意見も踏まえながら、来年の操作については引き続き検討していきたいというふうに思っていますということで、事務局、いいですよ。

事務局

はい。

座 長

それでは、他に。どうぞ。

E委員

今報告を受けました漁業振興対策として、藻場の保全ということで昨年行われましたね、今年度ですけれども。私どもの組合のほうからも非常に好評、そして期待をしておいでであることは事実であります。

現段階では、来年度以降も当然こういった形で取り組んでいただけるものだろうというふうに思っておりますし、今2月であります。令和3年においては、現段階でどのような形でやるかということがもし分かればお示し願いたいということと、これは短期的なものでなくて、繰り返しになりますが、中長期的にしっかり取り組んでいただきたいということも併せて踏み込んでいただいた、現段階でのお答えを聞かせていただければなと思って

います。取組について、よろしく申し上げます。

座 長

藻場の保全の話ですけれども、事務局のほう、お願いします。

事務局

事務局でございます。

まず、本取組は富山県の農林水産部、それから水産研究所のご協力の下、実施しているところでございます。好評をいただいているというところですので、来年度についても、引き続き試験的な取組は続けていきたいと考えております。

また、今年度のモニタリング等の結果については、今年度着手したばかりでございますので、その効果についても見ながら、また、こういった取組は、単年度、数か月に効果が出るものではございませんので、引き続き来年度もこの取組は県の水産研究所と連携しながら進めていきたいと考えております。

座 長

どうぞ。

F委員

今ほどE委員がおっしゃった藻場の関係でありますけれども、地元でも大変好評を得ているような状況であります。また、期待もされているように思いますが、水産振興という観点であまり国交省から強く出られると、また動きにくい面もあるのかなと思いますが、ここはやはり農水省、国交省、環境省などが連携をしてしっかりとした水産振興に当たれるように、藻場造成だけではなくて魚礁の設置なども踏まえた対策をぜひお願いしたいというふうに思いますし、この試験施工についても、今後もぜひ継続をお願いしたいというふうに思います。

それと、河道掘削で発生した土砂を侵食抑制のための試験的な養浜事業にも取り組んでいただいておりますということで、このことについても大きく期待をしておるわけでありまして、今後もぜひ実施をお願いしたいというふうに思います。

あと1点、先行操作についてでございますが、先ほどの評価委員会の評価につきましても、それなりの成果が上がっておるというふうにも見受けられるわけでありまして。やはり粗い粒径の土砂をしっかりと供給していただくためにも、そしてまた、海岸域までしっかりと土砂を流出していただくということも踏まえて、今後もぜひ先行操作というものを実施していただきたいということをお願いしたいというふうに思います。

座 長

ありがとうございます。

その他ございますでしょうか。どうぞ。

B委員

資料の別添-2-①のことなのですが、例えば6ページですけれども、連携排砂終了1日後に調査するという事になっているんですけども、一番下の注書きを見ますと、連携排砂1日後の調査は7月16日ということで、連携排砂してから結構な日数がたつてからの調査になっていまして、何でそんなに遅れたのかということと、グラフの書き方として、連携排砂終了1日後というのは、さすがに無理があるのではないかと思います、いかがでしょうか。

座 長

事務局のほう、いかがでしょうか。

事務局

お答えいたします。

まず、ダムの貯水池の調査につきましては、宇奈月ダムの貯水池の水位が高いと、いわゆる越流の状態になります。そういったところに船を浮かべて調査をすることについては非常に危険なところがありまして、水位がある程度収まってからじゃないと調査ができないというところがございます、このような日取りになっているところがございます。

特に、今年度は7月、長雨が続いたところもありまして、なかなかダムの水位が下がらなかったというところもありまして、安全も確保して調査実施できたのがその日だったということでございます。なので、そのように記載しているところがございます。

ただ、調査自体は、もし早く入れれば1日後調査をするという位置づけで、このような調査をしているところがございますけれども、表現のほうをもう少し分かりやすくすべきではないかというご指摘であれば、ご指摘を踏まえて表示の仕方等についてはまた検討していきたいと考えております。

座 長

よろしいでしょうか。どうぞ。

B委員

安全上の理由でというのは分かるんですけども、もし調査船を出さずに測定できるような方法があれば、そういったことも今後検討していただければと思います。

座 長

事務局のほう、どうでしょうか。

事務局

現時点では、そのような方法が取れるかどうかは、ちょっとお答えは難しいところありますけれども、ただ、ご趣旨としましては、少しでも直後の調査のデータを把握してほしいというご要望かと思っておりますので、最新の調査方法として、少しでも早く調査できるような方法を今後も検討してほしいという貴重なご意見として受け止めたいと思います。

座 長

他によろしいでしょうか。他ございますか。

どうぞ。

D委員

まず、付箋⑦の別添ー1ー⑤のところで先行操作の効果検証というところがあって、この8ページなんですけれども、先ほどの事務局さんの説明の中で、粗い粒径のものが出て、左側の宇奈月ダムの排砂のところの直下のSSを見ると、49,000mg/lが37,000mg/lに下がってピークが低くなったよということで、先行操作の効果があったということで、土木部のほうではこれを評価しているところでございます。

これを踏まえて、さらにこのグラフをよく見ますと、実は26日の21時から翌27日の21時、大体24時間の間で、排砂の場合で先行操作で27万、通砂のところはまだ10万ということで、まだ40万弱の量が短い間で出ています。いい成果が得られたものですから、この数字もさらに改善が図られるように、引き続きまた事務局のほうでご尽力賜ればということで要望でございます。

以上です。

座 長

何かコメントはいいですか。

事務局

事務局でございます。

まず、今回、先行操作を試験的に実施しまして、いわゆるSSのピーク濃度が低下したということは、1つの予想していたところが出た効果でございます。

ご指摘のところは、こういうふうに効果が出たので、濁りとかSSの濃度がもう少し低下できないかというご指摘かと思っております。

これにつきましては、一方では、ダムへの堆積土砂量を低減する、すなわちできるだけ翌年に持ち越さない、土砂を変質させない、ダムへの堆積土砂量を低減しないといけないということが一方であり、また、ご指摘のところは、とはいえ排砂のときにSSのピークの濃度をもう少し低減してほしいという話があって、それを8ページの棒グラフにあるような、ある一定の濃度以上の時間を短くしてほしいというところにもつながるご意見かと思うのです。

総量自体を少なくするとダムに堆積することにもなりますので、そこはバランスかなと思っております。少しでも環境負荷といえますか、SS濃度を低下させるような工夫ができれば検討してほしいと、そのようなご意見という形で受け止めてよろしゅうございますでしょうか。

D委員

そのとおりでございます。平成29年には、いろんな試みとしてSS成分の影響が少なくなるような流下方策というのも取られておりますので、このときの成果もありますし、いろんな試みを、バランスを取りながらの中で難しいとは思いますが、また操作方法の工夫をお願いしたいという趣旨でございます。

座長

ありがとうございます。

他にございますか。どうぞ。

C委員

私どものほうも漁業者の方からの要望、あるいは農業者からの要望、改善というようなご意見もいろいろいただいております。これまで国交省さん、あるいは関電さんとも調整をしながら、県として協力できることはやってきたつもりでありまして、ただ、いろいろ要望もあるものですから、5点についてお話をさせていただければと思います。

1つは、環境調査であります。漁業団体のほうからも、いろいろ漁業者の意見も踏まえて、あるいは相互理解のある調査を実施してほしいというお話もございますし、先ほどご紹介もありました県漁連さんからも、漁場に堆積した浮泥が拡散してというお話もございます。できれば、そういった要望、ご意見に対するものを踏まえた調査というものを検討していただいて、調査の結果によっては難しい分析結果、データなんかも出てくるとは思うんですけども、漁業者に分かりやすく説明をしていただければなというふうに思っております。

2点目については、排砂の実施方法であります。今年度新たに宇奈月ダムの先行操作が試験的に実施されたということで、先ほどのご報告にも、SSピーク濃度が従来よりも約2割減少ということで、こういうものについては、漁業者にとっても非常に分かりやすいデータになるかと思いますので、そういったものも分かりやすく説明をいただきたいということもございますし、今後さらに検討していただいて、より自然に近いような形でできればなというふうに思っております。

3つ目は、漁業者の要望する漁業振興に資する具体的な対策という要望がございます。先ほどF委員、E委員からもお話がありました、今年度から藻場の保全の取組を進められているということでございますので、水産資源の増殖等の効果も県として期待ができるということで、一部、県のほうでも協力はさせていただいておるんですけども、引き続き検証もしていただいて、ぜひ継続をしていただければなというふうに思っております。

4つ目は、河川の下流部に堆積した土砂の除去ということであります。樹木伐採、河道掘削ということでお話もございましたけれども、漁業者との間で魚にやさしい川づくり検討委員会というのも開催されているということもございました。今後も、要望を聞きながら、特にサクラマス、サケ、アユといった重要な水産資源もございますので、そういった配慮をした取組をお願いしたいということであります。

最後、5つ目は、漁業者の関係ではなくて農業用水についてであります。今年度、排砂、通砂、いずれも完了が夕刻になったということで、実際、愛本合口堰堤からの取水開始は翌日になっております。特に通砂については、夜、大雨が降ったということで、濁り、濁水が生じたということもあって、さらに取水開始が遅れたということもあって、農業者によっては非常に長い間、水が来ないというような感覚もあったようでございます。

この件につきまして、県議会でも一応話題になったということで、いろいろ問合せもさせていただいたところではございますが、実際には山のほうでは大雨が降っても、下流の田んぼでは雨が降らないという状況もあろうかと思えます。できるだけ早く事前の情報提供があるとありがたいなというふうなことで要望させていただければと思います。

いずれにしても、漁業者の皆さん、農業者の皆さん、連携排砂、通砂については非常に不安感を持っておられる、そういう方もいらっしゃいますので、引き続きご理解がいただけるような最大限の努力をお願いできればなということでございます。

私からは以上でございます。

座 長

どうもありがとうございました。

事務局、何かコメントありますか。

事務局

事務局でございます。

まず、富山県農林水産部におかれましては、環境調査ですとか、先ほどの藻場保全策で最大限ご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

それから、1点目は環境調査について、漁業者の意見も踏まえてというご指摘だったかと思えます。そちらの回答につきましては、先ほどの回答の2ページのほうにもありましたが、引き続き排砂評価委員会の助言・指導をいただきながら、最終的に表層だけでなく海域における土砂動態の把握につながるよう、すなわち漁業関係者のご要望につながるような形で、実施可能な調査方法については引き続き検討していきたいと思っております。

2点目の排砂実施方法については、分かりやすい効果の説明ですとか、それから、より自然に近い排砂方法をもう少し工夫してほしいというご要望かと思っておりますので、それについても引き続き試験実施の中で検討していきたいと思っております。

3点目のほうにつきましては、どちらかというところ、これは共同で実施しているところもありまして、大変感謝申し上げますけれども、国土交通省の立場としましては、海岸法で言うところの海岸環境の保全という立場ではお役に立てるのですけれども、なかなか水産振興とかになりますと、どうしても富山県農林水産部並びに水産研究所のご協力を賜る必要があるというところがあります。

そういったところを、持ち場持ち場で連携して取り組むというところが大事なかなと思っておりますので、こちらにつきましても、先ほども回答させていただきましたが、単年度、数か月で効果が出るものではございませんので、引き続き連携して継続した取組をやっていきたいと思っております。

それから、4点目でございます。下流部の河道掘削につきましては、治水上の目的、それから河川の管理上の目的で河道掘削等を実施しております。こちらについても、先ほどアユなどの魚類に配慮するというお話がありました。これについても引き続き内水面漁協、それから学識経験者のご意見もいただきながら、連携して環境に配慮した取組、河道掘削等を実施していきたいと考えております。

5点目のほうにつきましては、これまで連携排砂、通砂においては、実施体制とか、ど

のような状況かという状況連絡等を関係団体に対しては行ってきているところではございます。また、事前の情報提供というところにつきましては、例えば排砂、通砂の実施を数日前に精度よく予測して提供するということについては、なかなか技術的に難しいところでございます。ただ、その中で、どのような情報提供ができるかを事務局としましても検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

座 長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

C委員

はい。

座 長

他にございますか。

どうぞ。

G委員

それでは、関係団体からの意見ということについて触れさせていただきます。

まず、資料-2の5番目のくろべ漁業協同組合さん、⑤というふうにしてありますが、海底の地質等がどのように変化したのか今となっては不明であると、非常に寂しい表現をしておられるんですね。私は、これは裏を返すと、非常に何かに対して憤っておられるなと、しょうがないと、諦めにも近い言い方になっていると思うんですね。これは全面的に排砂がどうかしたかということについては私は言い切れないと思うんですけども、やっぱりこういったことに対する対応はしっかりしてあげてほしいなと思います。

それで、魚と餌となる生物が減少していることを実感していると、私は漁師ではありませんけど、たまに市場へ行ったりすると、まさに私も実感しております。

そういったことで、このところは、対策としては、今やろうとしている藻場保全の試験施工、これがぜひ海岸伝いにしっかりとスピード感を持ってやってほしいと。藻場を育成するに当たって、さらに違った工法があるんだったら、それくらいの意欲を持ってぜひこれはやっていただければありがたいなというふうに思っております。それぞれ皆さん方が触れられたことであります。

それから、農業に関して一言触れさせていただきますが、C委員もおっしゃいました。農業は確かにこの要望に出ていますとおり、これから恐らくもっと大規模化していくんだら

うと思います。ということは何が起きてくるか。今、排砂期間としては6月から8月ですよ。6月というと、一般的には田植えは全部終わっていると思われるんです。ところが、大規模化すると、6月にまだ黒部市内でも田植えをしているところがあるんですよ。

したがって、どういうことかということ、一方ではほとんど田植は終わっていると。6月、この時期になりますと、皆さん方には釈迦に説法になるかもしれませんが、溝を掘って中干しという時期になるんですね。そんなに水が要らない時期、足がべちゃべちゃと田んぼの中で、ぐちゃぐちゃとなる程度と。ところが、片方では、田植えをしておるところがある、そこは水が要ると、そういう状態なんです。

ところが、今までの排砂を見ていますと、6月の頭は意外と排砂できる状態になっていないんですね。したがって、今まではよかったんです。こういったところも、ここにご意見があるとおり、大規模化していくと、そういったことも踏まえていかなきゃならないということをご理解いただきたいなというふうに思っております。

それ以降になりますと、普通にひたすら水が欲しい時期が来ると。そこで問題になるのは、今、C委員もおっしゃったとおり、単純に水が欲しいから来ればいいということではなくして、排砂したときには合口用水が止まります。合口用水が止まるということは、水が入ってこないということでしょう。ところが、そのときはほとんど雨が降っていますから、なくても水が田んぼに落ちるんですよ、欲しい時期に。

問題はその後なんですね。さあ、いよいよ排砂終わったぞと、そしたら泥水がが一つと流れますよね。それが、合口用水を開けちゃうと、泥水が入っちゃう。ここに大きな問題があるので、C委員がおっしゃったのは、まさにそのとおりなんですよ。このあたりの時差は気をつけてほしい。失礼ながら、ひょっとするとこの辺にあんまり意識がされていないんじゃないかなと。とにかく、雨があつたし、排砂もやめにやいかんと。だ一つと流すと。どの時点で合口用水を開けて田んぼに水張りをするかと。ここを間違っちゃうと、泥みみたいなものがぶわ一つと田んぼに入っちゃうという、このあたりをもう一回見直し、しっかりと見詰めてほしいと思います。

8月末まで一応期間になっていますから、その頃になりますと、いよいよ稲刈りが近くなりますので、どういう状態になるかということはお分かりますけれども、このあたりでも、もし排砂をやった場合には、ただ単純にばつと合口用水を開けちゃうと泥水がばつと入ってくるという、もう稲刈り直前ですから、こういったことについて十分話をしてほしいと農家の方も言うておられました。

それから最後に、以前はあまり考えられなかったんですけど、残念ながら樹木伐採をしたり、河床が減るところかむしろ高くなっちゃって、削らにゃいかんという状態になっています。河床の掘削。

ということは、逆に言うと、排砂が始まって何十年たつんだけど、言われているほど海岸の養浜は進んでいないということなんです。川の中にこれだけの土砂がたまった、川は高くなった、周辺の人が怖いから掘ってあげないかんと。ということは、それだけの分、本来は海岸に出ておれば、もう少し養浜ができるんですね。全くそれが進まないという事実関係だけは、私は認めてほしいと思うんです。思ったよりも養浜は進まない。しかしながら、流れていくものがあるから、養浜はしているけれども、当初想定していたよりも、海岸の養浜には役立っていないということは、私は認めてほしいと思うんです。

以上です。

座 長

ありがとうございます。

幾つかありましたけども、1点目と2点目は、先ほど来のお話でありますので、3点目のところについて、何か事務局、コメントがあればお聞かせいただけますか。

事務局

まず、1点目、2点目のほうの藻場の保全策の話、それから農業の大規模化というところも踏まえて農業関係者のほうに情報提供というのをもう少ししっかり考えてほしいというところについては、ご意見を踏まえて当方としても考えていきたいと思えます。

あと、3点目のほうでございますけれども、ご指摘のところは、排砂を実施しても養浜といいますか、海岸保全といいますか、砂浜保全のほうに十分寄与していないのではないかとご指摘ではないかと思えます。

この点につきましては、例えば荒俣海岸については、砂浜のほうは、排砂後、海岸線の測量等を見ますと、砂がついて回復しているところがあります。ただ一方で、例えば入善側といいますか、東側のほうに行きますと、土砂のほうは漂砂というか、波の向きによってなかなかついていないというところがあります。ここについては、排砂によって十分に砂が到達してないところについては、養浜等を実施していきたいというふうに考えております。

いかんせん、こちらのほうも釈迦に説法ではございますけれども、富山湾については非常に深い海底でございますので、河口から出る土砂については、基本的に海底のほうに土

砂が落ち込んでいくというところも多分な量ありますので、そういったところも踏まえて、まず、荒俣海岸のように、波の向きとかで砂がつくところについては、スムーズに砂浜が回復するように連携排砂と海岸保全に努めていきたいと。また、なかなか自然の営力では砂がつきにくい、礫浜とかがつきにくいところについては、河道掘削の土砂を使って養浜をしていく取組というのを進めていきたいというふうに考えております。

ただ、これにつきましては、一方で、漁業関係者からすると、漁場で水産物を取るところもありまして、これについても漁業関係者のご意見も聞きながら進めていく必要があるかなと考えておりますので、そこも含めて合意形成を進めていきたいと考えております。

座 長

どうぞ。G委員。

G委員

ありがとうございます。

今ぐらいの説明をされたほうが私はいいと思うんですよ。ほとんど海岸の方々は、連携排砂をやって土砂を流すがかよと、流すと何がいいことがあるがやと。いや、海岸はしっかり保全されて養浜されますよと、そのことで一言ば一つと流れちゃっている。ところによっては、そうはならないところもあるということを確認したほうがいいと思うんです。ここここは地形的にも養浜されやすいんです、ここはどうしても難しいですと。あるいは、富山湾を見て、がめみたいに深いからどうしても落ちてしまうとか、そんなことをはっきり申し上げたほうが私も市民に対しては説得しやすいし、養浜というのは、全ての面でそれを享受できるものではないんだと。地形的にも難しい部分もあるし、しかしこういったところは非常に養浜されて助かっているよと。

その中においても、またさらに前へ進められるものがあつたら、ぜひ、国交省さんですから、全然我々とレベルが違うところで物をやっておられますので、海岸の工学であるとかというものを研究されまして、さらにそういったものをやっていただくとすれば、海岸沿いに住んでいる者としても非常にうれしい。私なんかは海岸から70mぐらいのところに住んでいますから、この数十年間を見ておっても、申し訳ないけれども、全然養浜のメリットなんていうのは感じた覚えはありません。

そんなことでありますので、今、事務局のおっしゃったようなことが、非常に私は説得力があつて分かりやすいと思います。ありがとうございました。

座 長

ありがとうございました。

ダム排砂の効果については、ダムの堆砂を抑えるという第一義的な目的、治水を中心として、そういうことでこれまで説明してきたところもあるのかもしれませんが、G委員がおっしゃるように、河川とか海岸に対してどういうふうな状況なのかというのは、もう少し資料等でも今後説明できるように準備をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

他にございますでしょうか。どうぞ。

F委員

先ほどからいろんな意見のある中で重複すると思いますが、特に農業関係の話になりますけれども、私どもも排砂あるいは通砂の案内をいただくと、防災無線で情報提供したり、メールで情報を提供するというシステムをつくっております。

そういう点では、それなりの情報は皆さん方のほうへ伝わっておると思いますけれども、やはり気象情報などを事前に察知されて、余裕のある時間帯、時間帯を確保した段階での情報をぜひいただきたいなということでもあります。

そのことで、水の必要な農家の方は事前に水を使う、あるいは、いろんな形で準備が気持の整理も含めてできるというふうに思いますので、ぜひ時間の余裕のある形での情報提供をお願いしたいということを要望したいと思います。

座 長

ありがとうございました。その辺については、引き続き農業者の方々との話合いも進めて対応していきたいと思います。

その他、ございますでしょうか。大体よろしいでしょうか。

[質疑なし]

まとめ

座 長

そうしましたら、確認という意味も含めまして、最後まとめさせていただきたいと思えます。

まず、連携排砂の宇奈月ダムの先行操作につきましては、評価委員会からも引き続きというお話もありましたし、今日のご意見の中でも、それについては継続をしていくということで、概ねご理解が得られたのかなというふうに思っております。

具体的にその中では、出し平ダムの排砂のタイミング、これについてはもう少し気象条件との関係で検討してはどうかといったようなご意見、あるいは今回、濁水を減らす一定の効果が出ただけでも、さらにそれを減らせるような、できるだけ自然に近い形でできるようにさらに努力をしてほしいといったようなご意見。

さらに、排砂の実施に当たりましては、これも多くの方々からご意見ありましたが、早めの事前情報を含めて、農業用の取水への配慮、この辺についてぜひ検討していただきたいというようなお話があったかと思えます。

それと、排砂の実施については、海岸のほうへの効果等も含めて、もう少し分かりやすく説明をしていったほうが良いというようなご意見がありました。

それと、環境調査につきましては、引き続き漁業者の方々の意見も踏まえた中で調査を実施すること、また、その方法とか結果についても分かりやすく説明をしてほしいといったようなご意見が引き続きありました。

排砂と環境調査についてはそんなところだったと思えますけども、そのほか、現在実施をしております海のほうでの藻場の保全の話でありますとか、河川土砂の除去の話、水産資源に配慮した除去の話、この辺については、引き続き関係者と調整を図りながら、連携をしながら進めていってほしいといったようなご意見だったかなと思っております。

そんなところでよろしいでしょうか。

[各委員うなづく]

座 長

そうしましたら、本日いただきましたご意見を踏まえて、次回は来年度になりますけれども、来年度の連携排砂の仕方について、評価委員会を事前に開いた上で、改めてまたこの協議会を開きまして、来年度の実施の計画について議論をさせていただきたいと考えて

おります。

議事については以上でありますけれども、何か委員の皆様から話し残したこととかがございましたら。よろしいでしょうか。

〔各委員うなずく〕

座 長

それでは、事務局のほうにマイクをお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

4. 閉 会

司 会

長時間にわたりまして熱心なご議論、誠にありがとうございました。

次回の協議会につきましては、今後日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、第49回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

誠にありがとうございました。